

American Rock Lyric Landscape

—アメリカン・ロック・リリック・ランドスケープ—

ロックの歌詞から見えてくるアメリカの風景

文=ジョージ・カックル

イラストレーション=花井祐介

第27回

ドン・マククリーン 「アメリカン・パイ」

イノセントなロックが消えてしまった(前編)



Don McLean
"American Pie"
United Artists/UAS5535 [1971]
EMI-Manhattan
©CDP7 46555 2

いた俺もFENでフルを聴いていたものだ。この曲からは、あらゆる人たちがあらゆる意味を探り出そうとしている。曲名をインターネットで検索すると、きりがいいほど様々なサイトが出てくる。しかし大半はとりとめがない。ドン自身もあまり語っておらず、この曲はあなたにとってどんな意味があるのかという質問に、俺が働かなくてもいいようになった曲だ」と答えたほど。曲が売れたから働く必要がないという、彼なりのジョークだった。ドンが認めているのはロック歌手バディ・ホリーの死から彼が大きな影響を受けたということ、曲の解釈は聴き手それぞれで構わないと思う。俺は、ドンがバディに捧げた歌だと思っている。バディが亡くなった59年2月3日から始まり、ボブ・ディランが全盛を誇った波乱の60年代を通り過ぎ、ストーンズの69年12月6日のオルタモント・コンサートで曲が終わるとしか言えないと思う。

(verse 1) Long long time ago
I can still remember
How that music used to make me smile

初めてこの曲を聴いた時は、まさか8分以上もあるとは思わなかった。最初はただ、キャッチーなサビをすぐに覚えて、仲間とよく歌っていた。コーラスのメロディーと、歌いやすい歌詞が印象的で、その内容に興味を持ったのは、随分と経ってからだ。「アメリカン・パイ」は、ドン・マククリーンが71年に発表した2枚目の同名アルバムから72年にシングル・カットされ、全米

チャートのナンバー1を4週間記録した。シングル・ヒットとしては珍しく8分29秒もあり、A面に分かれていたほどだ。一般的にアメリカのAMラジオ局では3分40秒以上の曲はからなかったが、この頃にはLPからかけるFM局が盛んになっていた。AM局は最初シングルA面だけをかけていたが、やがてLPからのフル・ヴァージョンを流すようになった。当時、日本に

「昔々のことを、僕はまた覚えている。音楽が僕に笑顔をくれた。この曲が出た70年代は、ドンが子供だった50年代とは様変わりしていた。50年代のアメリカは第二次世界大戦後の平和が続ぎ(朝鮮戦争はあったが)、経済的に豊かになっていた。仕事さえすれば大々的な車に乗れ家も買え、家族も育てられる。ロックにも政治的な要素がなくて、イノセントなラヴ・ソングだった。

And I knew if I had my chance
That I could make those people dance
And maybe they'd be happy for a while

そしてチャンスがあったら、僕も皆を踊らせ、幸せにしてあげたい。50年代のロックは踊るための音楽。まだ60年代のジヤムや長いドラム・ソロはなかったからね。

But February made me shiver
With every paper I deliver
Bad news on the doorstep

でも、2月は震えながら新聞配達をした。玄関に投げるのは悪いニュースが載っ

た新聞だ。バディが亡くなった日のことを歌っている。アメリカの新聞配達子供がやる仕事。大きなキャンバスの袋を背負い、自転車で回る。ポストではなくドア前のポーチか芝生の庭に投げ入れればいい。I couldn't take one more step
I can't remember if I cried
When I read about his widowed bride
But something touched me deep inside
The day the music died

1行目は「一歩も前に出られないうつまり、ぶっついていしかわからないうつ意味だ。未亡人になったバディの奥さんの記事を読んだ時、泣いたかどうかは覚えてないが、音楽が死んだこの日(※)、僕の中でも何かが変わった、そんな意味合いだ。

(chorus) So bye, bye Miss American Pie
Drove my Chevy to the levee but the levee was dry

だから、さよならミス・アメリカン・パイ。この「American Pie」とは、きつと

イノセントなアメリカのことを指すのだろう。シェヴィーでレヴィーを走ったけど、そこはドライだった。「Chevy」はアメリカ車シボレーの愛称。「Levee」は土手で、横には道が走る。「Chevy to the levee」は50年代のシボレーのCMからの引用。次の「dry」にはもう一つ意味がある。ドンが若い頃によく行っていたレヴィーという飲み屋が閉店し、そのことを「ドライになった」と言っている。酒が飲めない場所をドライと呼ぶことにひっかけられているんだ。

And then good old boys were drinking whiskey and rye
And singing this will be the day that I die
This will be the day that I die

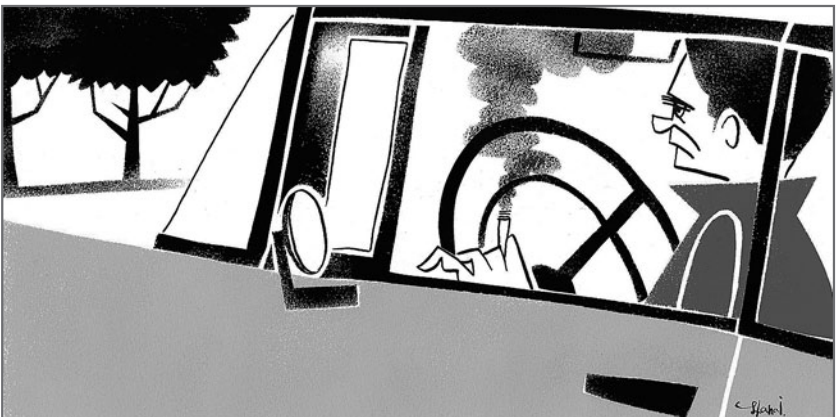
そこにいる男たちはウィスキーとライ麦酒を飲んでた。そしてこの日、僕は死んでしまったと歌っていた。「男たち」とはレヴィーにいたドンの仲間、ひいてはアメリカ人すべてを指す。最後の行はバディの「ザットル・ビー・ザ・デイ」の二節(あなたにさよならは言わないはずだ。だ

※59年2月3日、ツアーを終えたバディ・ホリーが搭乗したチャーター機が墜落、同乗していたリッチー・ヴァレンス、ザ・ビッグ・ボッパーと共に死亡。享年22歳。3人のミュージシャンが一度に亡くなったこの日は、「音楽が死んだ日」と呼ばれた

ってそれは僕が死ぬ日になってしまふ」からの引用。つまり、ミス・アメリカン・パイがいなくなったら(音楽が死んだら)、イノセンスがなくなったら)、時代が変わり自分たちは死んでしまふと歌っているんだ。

(verse 2) Did you write the book of love?
And do you have faith in God above?
If the bible tells you so
And do you believe in rock and roll?
Can music save your mortal soul?

二つ目のヴァースだ。愛のマニユアルは君が書いたの?」「ブック・オブ・ラヴ」は、愛のマニユアルは神が書いたと歌う、モノトーンズのヒット曲(57年)。ここでのドンは、君は神を信じるかい?もし聖書に書いてあるのならそうなんだろう」と歌う。アメリカでは何かを質問すると、聖書に書いてあることなだから、と答える人も多い。つまり、思考停止だ。次の歌詞ではロックンロールを宗教と入れ替え、君はロックンロールを信じているか、音楽は君の魂を救ってくれるのかと問う。



And can you teach me how to dance
real slow?
Well I know that you're in love with
him
Because I saw you dancing in the gym
You both kicked off your shoes

「ゆっくり踊るにはどうすればいいか教えてくれなしか。」「ワグドンは、彼女に振られる話を入れる。ドンは彼女が他の男と踊っているのを見て、彼女がその男を愛しているのが分かった。体育館で踊っているのを見たよ。二人は靴を脱いでいた。アメリカの高校生のダンス・パーティーは体育館だから、靴を履けな。靴下だからソック・ホップ(Sock Hop)」と言った。

And I dig those rhythm and blues
I was a lonely teenage broncin' buck
With a pink carnation and a pick up
truck
But I knew I was out of luck
The day the music died

「僕はあのR&Bが好きだ。」「ここでの

dig」は、掘る」ではなくて、好きとらいう意味。振られたドンは音楽を聴くことしかできな。僕は飛び跳ねる馬のような孤独な十代。ピンクのカーネーションを胸に付けておしやれしているが、振られたドンは一人でビックアップのトラックに乗る。音楽が死んだ日、僕にはもう運がなくなつた。もう彼女もいないんだ。」

(chorus ~verse 3) Now for ten years
we've been on our own
And moss grows fat on a rolling stone
But that's not how it used to be

コーラスの繰り返しした後、三つ目のヴァースに。バディの死=音楽が死んだ日から10年が経った。'And moss grows fat on a rolling stone'は諺「A rolling stone gathers no moss」転がる石には苔が付かない」に掛けている。'rolling stone'は、自由な人」を指すが、この曲では、石に苔がたくさん付いている」=皆が転がらなくなつた石になっている、つまり太った、思考を止めた」と歌う。50~60年代のポジティブな魂がなくなつたとも取れるだろう。

When the jester sang for the king and queen
In a coat he borrowed from James Dean
And a voice that came from you and me
Oh and while the king was looking down
The jester stole his thorny crown
The courtroom was adjourned
No verdict was returned

「王や女王のために道化師は歌った。」「ワグドンの「jester」は、おとぼけ・デモクラシーのことだ。道化師は王に直接言えないことをコメディーやアイロニーで表現する。ボブは言葉に意味を隠して曲作りをしたアーティストだ。次に、ジェイムズ・ディーンから借りたコートを着て」とあるが、これはジェイムズが映画『理由なき反抗』で着ていたウインドブレイカーのことではないだろうか。ボブは『フリーホイーリン・ボブ・ディラン』(63年)で、ジェイムズとそっくりなウインドブレイカーを着ている。

「僕たちみんなから出てきた声。王が下を向いた隙に、道化師は王の棘だらけの冠を盗んだ。裁判では陪審員がまだ結論を出

してらな。」「ワグドンの「王」とは、エルヴィス・プレスリーのことだろう。エルヴィスに取って代わってスーパースターの位置にいられたボブのことを歌っているのだと思。」「女王、にっは誰のことを言っているのか不明。'verdict was returned'は、売れてはいるが世間はボブに対してはまだ結論を出していない」という意味だ。

And while Lenin read a book on Marx
The quartet practiced in the park
And we sang driges in the dark
The day that the music died

「Leninがマルクスの本を読んでいるとき、4人組が公園で練習していた。この「Lenin」とは、レーニンかジョン・レノンか。本」はカール・マルクスそれともグラウチョ・マルクス? レノンもグラウチョみたくに皮肉なジョークが得意だった。」「4人組」は、『サージェント・ペパーズ』時代のビートルズだろう。だけど、僕らは暗闇で挽歌を歌った。音楽が死んだ日に。」

続きは次号で説明したい。ここから時代が変わっていく悲劇を描いていくんだ。㊦